# 2019WORLD ROWING UNDER23 CHAMPIONSHIPS REPORT 10 (7/27)

大会4日目。連日のサンダーストームが嘘のように晴れ上がり、熱中症対策が求められる一日になりました。
日本代表チームは、3クルーが今大会最後のレースに、また1クルーがセミファイナルA/Bに挑みました。暑いフロリダに負けないくらいの、熱いレースを展開してくれました。

## *BM 1x セミファイナルA/B*

昨年のBM2xに続き、2年連続でオープン種目のセミファイナルA/Bに進出したBLM1xの櫻間選手（NTT東日本）。今年は1xでの挑戦となった。スタートからノルウェー、リトアニア、ルーマニア、オーストリア、南アフリカがほぼ横一線の中、じりじりと遅れ始める日本。500mの通過で1位ノルウェーから5.26秒差、3位ルーマニアから5.06秒差の6位となる。ここからもスピードを上げることが出来ず、1000mでは上位3か国とは約17秒差、さらに1500mでは役34秒差に開く。そのままペースト上げることが出来ず6位でゴール。ファイナルBに回ることになった。

武田ｻﾎﾟｰﾄｺｰﾁ（左）と艇の最終地ﾁｪｯｸを行う櫻間選手（NTT東日本）

コーチ陣に見送られて種目出艇！

ゴール直前のBM1xクルー櫻間選手（NTT東日本）。惜しくも6位となりファイナルBに回ることになった。

## *BW2-ファイナルB*

ファイナルBとはいえ日本の他にはイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストラリアなどの強豪国がずらりと並ぶ。ファイナルAには進めなかったものの、日本の力を試すには十分な舞台だ。

スタートからフランスが先行し、イギリス、オーストラリア、イタリアが続き、少し遅れて日本とドイツが付くといった展開に。500mは1位フランスとは3.96秒差の5位で通過。やはり世界のオープンの壁は厚いのか。と思わせられるが、見ている側とは裏腹に日本は第2クオーターに入りじりじりと先行する国々との差を詰めはじめる。1000mでは1位イギリス、2位オーストラリア、3位フランスがほぼ横一線で通過し、遅れて日本がイタリアとほぼ並ぶように5位で通過。この時点で1位イギリスとは3.78秒の差。

第3クオーター、日本の勢いは止まらない。先行するフランスを捉え更に2位オーストラリアにも迫ってきた。この日本の勢いは場内アナウンスをも惹きつけ「JAPAN」の連呼、さらに「Akiho TAKANO, Yui NISHIDA の完ぺきで美しいコンビネーションでJAPANが追い上げてきている！」とアナウンスされ、観客席付近も大いに沸き始めた。1500mでは1位イギリスとは3.98秒差、2位オーストラリアとは1.87秒差の3位で通過。そしてラストクオーター、疲れが見えてきたイギリス、オーストラリアに対して日本の勢いは更に増していく。ついにオーストラリアを捉え2位に浮上、更に1位イギリスとの差もラストスパートでぐんぐん詰め会場を大いに盛り上げそのまま2位でゴール。

オープン女子の可能性を大いに示したレースとなり、有終の美を飾った。

先行する強豪国のクルーを次々と追い抜く日本。

ラストクオーターのデッドヒート。
手前:フランス、中央:オーストラリア、奥:日本

ゴール前、1位イギリスとの差をみるみる詰めていくBW2-クルー。ラストクオーターのラップタイムは1位。
左からS西田選手（明治大学）、B高野選手（立命館大学）

フロリダの強い日差しが照り付け、気温がぐんぐん上がった。土曜日ということもあり観客も増え賑わいを見せるNathan Benderson Park

炎天下の中、伴走を続ける吉田U23ヘッドコーチ

レースが終わった選手が応援とビデオ撮りを行う

## *BLW1xファイナルC*

スタートからフィリピンが飛び出し、日本とポルトガルが追い展開でレースがはじまった。第2クオーターに入り日本が徐々にフィリピンとの差を詰めはじめ、1000mの通過はほぼ同時の通過ながらも0.31秒差で1位。ここから大きく伸びやかな漕ぎで第3、第4クオーターと着実に後続との差をつけ始め、会場のアナウンスもそのレース運びを絶賛する。日本は最後まで持ち前のローイングを崩さず、最終的には2位フィリピンに7.48秒差をつけ1位でゴール。総合13位で大会を終えた。

吉田U23ヘッドコーチと艇を担いで出艇桟橋に向かうBLW1x四方選手（鹿屋体育大学）

必死に力漕する四方選手

ゴール前、最後の力を出し切る
BLW1x四方選手（鹿屋体育大学）

## *BLM1xファイナルC*

スタートからチュニジア、ギリシャ、ラトビアが積極的に前に出始めるが、日本は落ち着いた入りで第1クオーターは1位ギリシャと3.2秒差の5位で通過。ここからギリシャが抜け始め、ラトビア、チュニジア、フィリピン、日本と続く。日本はイーブンペースを続け、フィリピンをかわし1000m地点では4位に浮上。後半に入りギリシャは完全に独走態勢に。少し離れてラトビアが、そしてチュニジア、日本、パナマがほぼ横一線で続き、わずかに遅れてフィリピンが続く展開に。日本は最も激しい争いの中にいる。ラストクオーター、横一線の争いに会場が湧く。日本も最後の力を振り絞り熱い戦いを繰り広げ、チュニジア、パナマ、ラトビアと抜きつ抜かれつの争いをしながら、なだれ込むように4位でゴール。総合16位で大会を終えた。

ラストクオーターでチュニジア（手前）、パナマ（奥）らとデッドヒートを繰り広げ会場を大いに沸かせた
BLM1xクルー　新井選手（慶應義塾大学）

大会も残すところあと1日になりました。最後までチーム一丸となって戦って参りますので、ご声援よろしくお願い申し上げます。